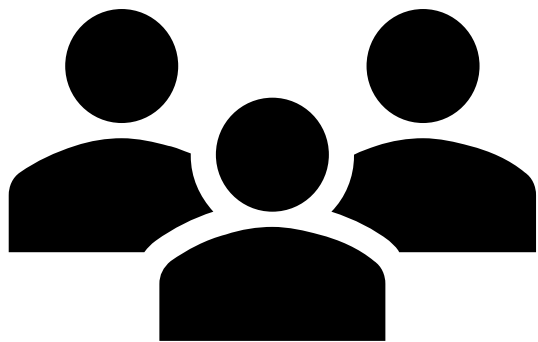


起こり得るハラスメント

～ 無意識のうちに加害者にならないために ～

【個人編】

あなたの考える・・・「普通」「当然」
誰かを傷つけることはありませんか？



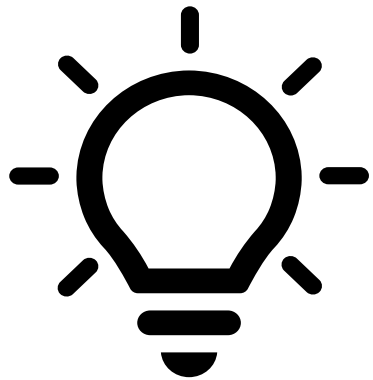
この資料は、チーム役員、指導者、保護者、そして連盟の役員、審判員など、すべての関係者が自身の行動を振り返り、考える機会として頂くための資料です。

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

人を傷つける行為は全て禁止です

殴る、蹴るなどの身体的な攻撃だけではなく、ののしり、罵声などの言葉による攻撃、話を聞かない、無視などの態度による攻撃、正当な理由が無い「排除」や「拘束」なども身体的な攻撃と同じように人を傷つける行為です。

考え方の変換が必要です。

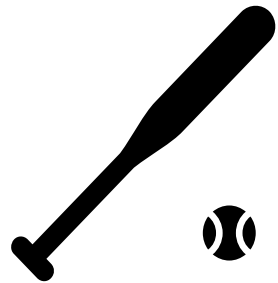


身体的な攻撃以外のハラスメントについては、比較的近年、世間で認知され始めました。報道等で頻繁に耳にして「そういう時代なんだ」と理解しているつもりでも、自身の行動と結びつかない事も多いと思います。しかし、時代に関係なく本来、人を傷つける全ての行為は否定されなければなりません。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

指導者⇒競技者



①指導的な立場の人が自分の方針を「絶対」と信じるのは普通のことです。

そのぐらいの信念がなければ指導はできないでしょうし、受ける方も考えが揺らいでいる人から教わっても不安なだけです。

しかし、その**信念をただ押し付け、ついて来られない人に対してきつく叱ったり罵声を浴びせたりするのは間違いです。**

何故この練習をするのか、どうして必要なのかを教えるのも指導。出来ない人はどうして出来ないのか、何か分からないことがあるのか、など本人の立場で考え、導いていくことが指導です。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

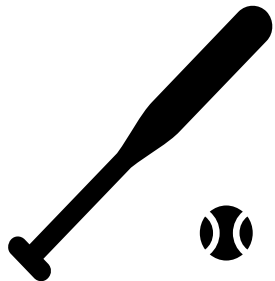
指導者⇒競技者

②指導者の方は選手を「導く」存在です。

スポーツの意味は、試合の運び方や様々な作戦を実行できるようになる練習、鍛錬をすることも重要ですが、競技の楽しさ、努力の意味、頑張っても全員が同じようにできる事ではない厳しさや現実、その中で自分にできる役割を探し挑戦することを体感することにあります。

選手が試合で失敗した時、指導者は「何故失敗したか考えること」「次はどうするかを考えること」を教え、導くのです。

叱りつけ、罰を与えるなどの行為は、「自分の思い通り」に出来ないという、指導者の一方的な立場からでしか考えていないために起こるハラスメントです。



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

指導者・チーム役員など⇒競技者・保護者など

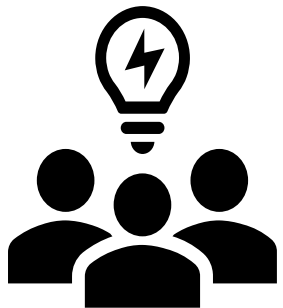
③人には「相性」があります。

指導者であっても選手の全員、また関係者の全員に平等に同じように接することが出来るとは思えません。合う人、合わない人が居るのは当然なのです。

しかし、**指導者やチームをまとめる立場の人があからさまな態度で接すると、チーム内でのいじめに繋がる可能性があり、ハラスメントに該当します。**

結果、「嫌われたくない」一心でチーム内の間違っただけの事に対して意見を言う人も居なくなってしまい、間違えた方向を早期に修正できなくなってしまいます。

何か意見を言う人を排除しようとすることは重大なハラスメントです。



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

「拘束」や「移籍の妨害」もハラスメントです

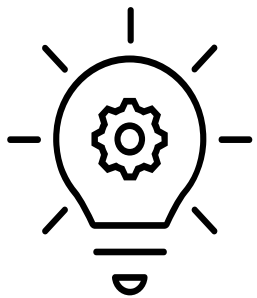
- ④どうしてもチームに馴染めない、指導者との相性も悪い、ハラスメントを感じる、ということでチームを移籍することを考える場合も多いと思います。

連盟規程第10条4項で、チームに異動があった場合には届け出が必要であり、更にその年度は他のチームへの登録が出来ない事を定めています。この規定は、元々チームを渡り歩くようなことを許さない規定です。トラブルが原因でチームに残るのが気まずく、難しい状況となった場合は例外と言えます。所属の支部等へ事情をよく説明し、スムーズに移籍できるようにする必要があります。

無理やり拘束する、移籍を許さない＝悪質なハラスメントです。

本来、軟式野球を楽しんで欲しいという気持ちのはずです。

今のチームに馴染めないのであれば別のチームで何とか楽しんでもらいたい、と思えば何も問題は起こりません。**考えを変えましょう。**



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

二重のハラスメントになる事を認識する必要があります



⑤個々の疑問や意見を取り合ってもらえない、チーム内の無言の圧力で意見を言えない、移籍も許されないなどの場合、連盟の通報窓口を通じた通報があります。

殆どの通報が、チーム内でコミュニケーションがしっかりとれていれば内部で解決できるはずの事案です。匿名を強く希望されることが多いのも内部の風通しの悪さを象徴していると言えます。 **内部の圧力＝ハラスメント** です。

特に、子供を預けている状態の少年野球では通報が分かると、子供が嫌がらせなどにより野球を続けられなくなるという心配が根底に強くあると感じます。

通報者へのペナルティ、嫌がらせ＝二重のハラスメント です。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

無かったことにはなりません



- ⑥たとえ悪気が無かった行為でも、「強い圧力」を感じた、そのことに傷ついた人がいたとしたら「悪気は無かったんだから」で終わらせることはできないのです。
- 事実は、ゴミのように丸めて捨ててしまうことは出来ないのです。
- ハラスメント行為の最大の問題は、やっている方（加害者）とやられている方（被害者）の認識が大きく違う、ずれているということです。
- 大半の事案、加害者は悪気があった訳では無いから大したことではないと思っています。
- 人はそれぞれ、感じ方や受け取り方が違います。

無かったことにしようとする態度や行動が一層被害者を傷つけることになるのです。

楽しくスポーツを楽しむために



軟式野球のチームは、指導者などの熱意によるボランティア精神に支えられているのが現状です。

そして、チーム入る選手は純粋に野球を楽しみたい、やってみたい、上手くなりたいという思いで集まって来ているはずです。

熱心な指導のつもりが相手を追い詰め、選手達が野球を楽しめなくなったら・・・それは本意でしょうか？

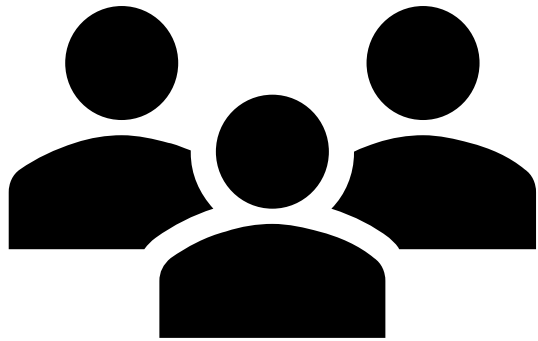
選手には皆違う個性があり、指導者の代わりに野球をやるわけではありません。例え自身の子供であっても、親の夢を投影し、押し付けて強制したりすることは許されないのです。

皆が楽しく軟式野球を楽しむために。

起こり得るハラスメント

～ 無意識のうちに加害者にならないために ～

【組織編】



その「普通」「当たり前」
世間で通用しますか？

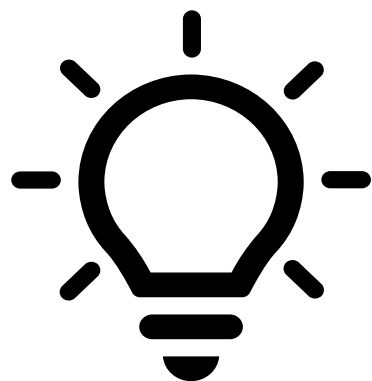
この資料は、主に連盟役員向けに作成していますが、チームや審判員組織など、関係するコミュニティにおいても、もう一度、自身の行動を振り返り、考えてみてください。

ハラスメントは全ての暴力を指します

殴る、蹴るなどの身体的な攻撃だけではなく、ののしり、罵声などの言葉による攻撃、話を聞かない、無視などの態度による攻撃、正当な理由が無い「排除」や「拘束」なども身体的な攻撃と同じように人を傷つける行為です。

考え方の変換が必要です。

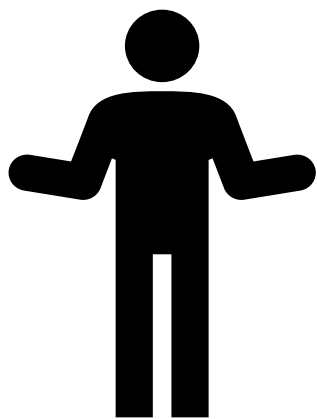
身体的な攻撃以外のハラスメントについては、比較的近年、世間で認知され始めました。報道等で頻繁に耳にして「そういう時代なんだ」と理解しているつもりでも、自身の行動と結びつかない事も多いと思います。しかし、時代に関係なく本来、人を傷つける全ての行為は否定されなければなりません。



競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

**組織の運営側は、特に次のような行為をしないよう注意を払う
必要があります。**



①運営側のやり方や規程、長年続く決まり事に対してチームなどから不満や疑義があった場合、よく話を聞かず一方的に「そういう決まりだ」と頭ごなしに片付ける。

→地域的な個々の事情、支部特有の決まり事・・・いわゆる習慣がある場合も多いと思いますが、今はSNS等によりチームは他支部の情報を容易に入手できる時代です。他支部には無い規程や決まりが必要な理由を明確に説明し、納得してもらう必要があります。

※それは「競技者にとって必要な決まり」でしょうか？（考えてみてください）

競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

二重のハラスメントになる事を認識する必要があります

②チームの疑問に対して、所属団体の回答が頭ごなしの回答だった場合、全軟連等のお問合せコーナーを通じて質問、所属団体の対応が通報されることがあります。

全軟連は通報者の情報などを「内部通報規程」によって守りますが、所属団体の通報者を特定し、自分達を飛び越えて通報したことを非難してはいけません。



→まさしく、競技団体が犯しやすい二重のパワハラです。

ひとつは、話を聞かず無視し、説明責任を果たさなかった事、もうひとつは通報したことを非難する事です。

競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

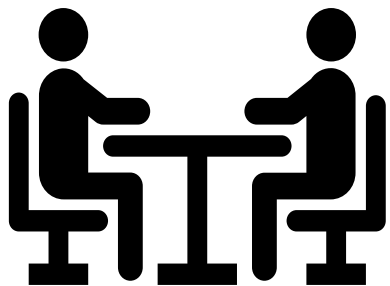
【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

通報窓口を利用したことを理由とした通報者の不利益な取り扱いは禁止しています。

③投げかけた疑問に対して、真摯に対応してもらえない、問題は解決しないと考え、通報という手段をとるのです。

日頃からコミュニケーションをとり、風通しの良い組織づくりを行っていただければわざわざ通報という手段は用いないのではないのでしょうか。

スポーツ団体のガバナンスコードに於いても「通報窓口を利用したことを理由として、相談者に対する不利益な取り扱いをおこなうことを禁止すること」と明記されています。



競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

調査依頼を受けた支部がやってはいけないことがあります

④チームの構成員が、チーム内の金銭トラブルや指導者の暴力・暴言などについて、報復を恐れて支部や全軟連の通報窓口へ匿名で通報する場合があります。通報が匿名であっても事実関係の調査は行うべきです。匿名を理由に拒むことは出来ません。何故匿名で通報しなければならなかったのかを考えてください。



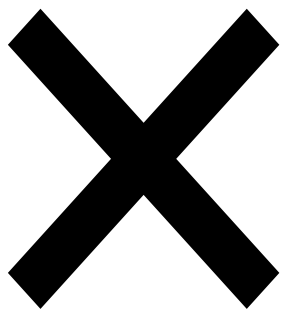
！！ NG行為 ！！

- 匿名の通報には調査、回答は出来ないと協力を拒む
- 犯人捜しをし、通報者を特定して立場を悪くする
- 通報を理由に処分する→（ハラスメントに該当します）

競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【出来れば内々に済ませたい気持ちは分かりますが・・・】

隠蔽は絶対NGです！！



- ⑤長年チームの指導をしている監督や代表者の方は、連盟と近い関係・・・ほぼ関係者となっている事がよくあります。様々な事案に協力して頂いたり、良い面が沢山あります。反面「身内」意識が働き、そのチームに何か不祥事があった場合、どうしても表沙汰にしたいくない、なかなか厳しい処分が出来ないという状況になり得ます。お互い気づかないうちに、いわゆる【なあなあ関係】になってしまっているのです。チーム関係者の話を聞く、意見を取り入れるといったコミュニケーションは必要です。ただし、何か事があった時にこそよく話し合える関係、本来は事が起こる前にきちんと注意ができる関係を築いていなければならないのです。

競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【出来れば内々に済ませたい気持ちは分かりますが・・・】

無かったことにはなりません



- ⑥たとえ強い悪気が無かった行為でも、「強い圧力」を感じた、そのことに傷ついた人がいたら「悪気は無かったんだから」で終わらせることはできないのです。事実は、ゴミのように丸めて捨ててしまうことは出来ないのです。ハラスメント行為の最大の問題は、やっている方（加害者）とやられている方（被害者）の認識が大きく違う、ずれているということです。大半の事案、加害者は悪気があった訳では無いから大したことではないと思っています。人はそれぞれ、感じ方や受け取り方が違います。

無かったことにしようとする態度や行動が一層被害者を傷つけることになるのです。

楽しくスポーツを楽しむために

アマチュアの地域スポーツ団体は、ボランティア精神に支えられた仲間で構成された団体であることが多いのが現状です。



団体関係者も、審判員も、チーム関係者もみなそれぞれ、野球に関わっていたい、野球を楽しみたい、という「野球が好き」という共通の思いがあります。立場が違うだけ……。【仲間】なのです。

それぞれが抱く疑問、抱える悩み・問題を真摯に受け止め、誠意を持って相手の話を聞き、誠実に説明・調査する必要があるのです。

その問題についてきちんと説明できない時には、例え長く続いている習慣であっても見直しをする、連盟と近いチームの出来事であっても、踏み込んで皆が納得するよう真摯に問題を解決する姿勢が必要なのだと思います。

皆が楽しく軟式野球を楽しむために。

全軟野連発第 270 号
令和 5 年 9 月 28 日

都道府県支部
理事長 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟
専務理事 小林三郎
アスリート委員会 委員長 富永茂巳
(公 印 省 略)

スポーツマンシップの啓発・啓蒙動画のリリースについて（通知）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、本連盟アスリート委員会において、昨年の天皇賜杯全日本軟式野球大会ならびに各都道府県内の各種大会等で、聞き苦しい野次が散見されたとの意見が出されました。野次は、スポーツおよび軟式野球の価値を下げてしまう恐れがあることなどから、選手・チーム関係者・審判員・連盟関係者への啓発・啓蒙を図る目的に動画制作を行いました。動画は、本連盟のホームページ内のニュース欄と野球系 YouTube の「トクサン TV」においても配信しております。

つきましては、各支部所属の登録チームに対して、改めてスポーツマンシップ・マナーアップへの取り組みと動画公開についての周知をお願い致します。

何卒よろしくお願い致します。

記

■スポーツマンシップの啓発・啓蒙動画【概要】

- (1)掲載場所：全軟連ホームページ内 「ニュース」内に掲載
- (2)内 容：マナーアップ・スポーツマンシップに対する考え方を学ぶ動画
- (3)制 作：本連盟アスリート委員会 徳田委員(野球系 YouTuber)による動画制作
- (4)協 力：(一社)日本スポーツマンシップ協会 中村 聡宏 会長
天晴(全軟連登録チーム) 監督・選手
トクサン TV(野球系 YouTube チャンネル) トクサン・ライパチ

以上

暴力・暴言・ハラスメントなどをなくすために

2013年4月25日 「スポーツにおける暴力行為根絶宣言」

【JSPO（当時日本体育協会）・JOC・JPSA（当時日本障害者スポーツ協会）・日本中体連・全国高体連】

10年

未だに暴力・暴言・ハラスメントなどの不適切行為は後を絶たない…

NO!
スポハラ

2023年4月25日から
「NO！スポハラ」活動
を開始

スポハラ（スポーツ・ハラスメント）とは

スポハラ（スポーツ・ハラスメント）とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など「安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為」のことです※。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。

（※子ども向けの説明）

スポーツをする人、みる人、ささえる人に対して、嫌（いや）なことをすることで、安全・安心にスポーツを楽しむことができないようにすることです。

（「NO！スポハラ」活動実行委員会作成,2023）



NO!
スポハラ

スポハラ＝スポーツ・ハラスメント

スポーツにおける「暴力」,「暴言」,「ハラスメント」,「差別」などの
“スポハラ”をなくし、

だれもが **「安全・安心にスポーツを楽しめる社会」** を目指す活動



The screenshot shows the homepage of the 'NO! SpoHara' website. At the top left is the 'NO! スポハラ' logo. The main heading is 'NO! スポハラ' in large white text on a teal background. To the right, there is a message in Japanese: 'スポーツ・ハラスメント (暴力、暴言、ハラスメント等) に、みんなが『NO!』という社会を目指して'. Below the text is a grid of 20 small images of people holding 'NO! SpoHara' signs. A large white circle with a downward arrow is positioned over the grid. In the bottom right corner of the grid, there is a 'PAGE TOP' button.



▲特設WEBサイト (<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>)

各種セミナーなどのアーカイブ、広報資料などを公開しています！

事 務 連 絡

令和6年6月27日

都道府県支部

事務局 御中

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

事 務 局

野球指導者啓発動画のリリースについて（お知らせ）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、今般、ジュニア育成の一つの取り組みとして、野球指導者啓発動画を制作いたしました。学童部・少年部の野球活動環境の改善を目的とし、「他競技から学ぶ」という趣旨のもとジュニアラグビークラブの協力を得て制作しております。都道府県支部内でも本動画の情報発信にご協力をいただきますようお願い致します。なお、本連盟HPにも公開させていただきましたので、ご確認をお願い致します。

以上、何卒よろしく願いいたします。

記

■野球指導者啓発動画掲載ページについて

本連盟公式HP（ニュース）

URL: <https://jsbb.or.jp/news/date/2024/2937.html>

以上

事務担当者：吉岡大輔 TEL：03-3404-8831